



発行所 JA 静岡厚生連清水厚生病院医療協力部門

2012.3.30 No.34

肝臓の炎症を抑えて病気の進行を遅くする治療方法

- 体の調子によりウイルスの排除を目的とした治療ができない場合や、ウイルスを排除する治療を行っても効果が期待できない場合などでは、病気の進行を遅くする治療を行います。
- ・インターフェロンの少量・長期投与：インターフェロンには、肝臓の炎症を抑えて病気の進行を遅くする働きもあります。ウイルスを完全に排除する場合には、インターフェロンを一定の量で、期間を限って投与しますが、病気の進行を遅くする治療の場合には、少量を長期にわたって投与したり工夫をします。
 - ・グリチルリチン、ウルソデオキシコール酸
この2つの薬は、肝臓を保護する働きがあり、肝炎の炎症を抑えることによって病気の進行を遅くする効果が期待できます。体からウイルスを排除することはできませんが、インターフェロンに比べて副作用は少なくなっています。
グリチルリチンは主に注射（強力ネオミノファーゲンC）で、ウルソデオキシコール酸は飲み薬です。

医療費助成について

2008年4月1日より、肝炎のインターフェロン治療に対する医療費助成が始まり、薬剤料、診療費、入院費などの自己負担の上限額が月額原則1万円(上位所得階層は2万円)に定められ、その上限を超えた差額を国と自治体が補助します。
助成期間は原則1年間ですが、一定の要件を満たし、医師が必要と認めた場合は1年6か月まで延長が認められます。さらに2010年4月からは、インターフェロン治療において、医学的に効果が高いと認められる患者に対しては2回目の制度利用も可能になりました。
*なお、詳細は「病診連携室」までお問い合わせ下さい。

トピックス

経口感染するE型肝炎をご存知でしょうか？

- ここ数年、国内で豚レバーやシカ、イノシシなどの野生動物の肉を生食したことからE型肝炎ウイルスに感染した事例が報告されています。感染した場合の症状としては、平均6週間の潜伏期間の後に発熱・悪心・腹痛等の消化器症状、肝腫大、肝機能の悪化(高率に黄疸を伴う)が現れ、大半の症例では安静臥床により治癒しますが、まれに劇症化するケースもあります。
野生動物の肉を安全に喫食する為の注意点をまとめました。

- ・ 豚レバーを含む豚肉並びにシカ及びイノシシなどの野生動物の肉(内臓を含む)は生で食べないようにしましょう。
- ・ 野生動物の肉は中心部まで火が通るよう、十分に加熱して食べましょう。加熱によりほとんどの危険な微生物を死滅させることが確認されています。また、他の動物の肉についても子供や高齢者、妊婦など抵抗力の弱い方は生食の摂取を控えるようにしましょう。
- ・ 生の肉類と加熱済みの肉類は分けて取り扱いましょう。取り扱う箸や皿も区別して使用して下さい。

医療情報紙『さくら』 No.34

発行日 : 2012年3月30日

編集者 : JA静岡厚生連清水厚生病院

薬局・臨床検査科・放射線技術科・リハビリテーション科・栄養科

特集

C型肝炎について

C型肝炎は、HCV（C型肝炎ウイルス）感染により引き起こされる肝疾患で、その感染者は国内で200万人以上、全世界では、1億7000万人以上と推定されています。HCVは主に血液を介する非経口感染により肝炎を引き起こし、その70%～80%ではHCVの持続感染が成立してしまうため慢性肝炎の状態に陥ります。HCVが体内から排泄されない限り、10年以上の年月を経て肝硬変、肝癌へと移行していきます。

肝臓には、下記のような働きがあります。

- 1、栄養分(糖、たんぱく質、脂肪、ビタミン)の生成、貯蔵、代謝
- 2、血液中のホルモン、薬物、毒物などの代謝、解毒
- 3、出血を止めるための蛋白の合成
- 4、胆汁の産生と胆汁酸の合成、ビリルビンの排泄
- 5、身体の中に侵入したウイルスや細菌感染の防御

我々が生きていくためには健康な肝臓であることがとても大切です。肝炎になると肝臓の細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなります。肝臓は予備能力が高く、慢性肝炎や肝硬変になっても自覚症状がでないことが多いことから『沈黙の臓器』と呼ばれています。このことを正しく認識し、HCVに感染していることがわかったら症状がなくても検査をし、病気を早く発見することが大切です。

血液検査

1、肝炎ウイルス検査

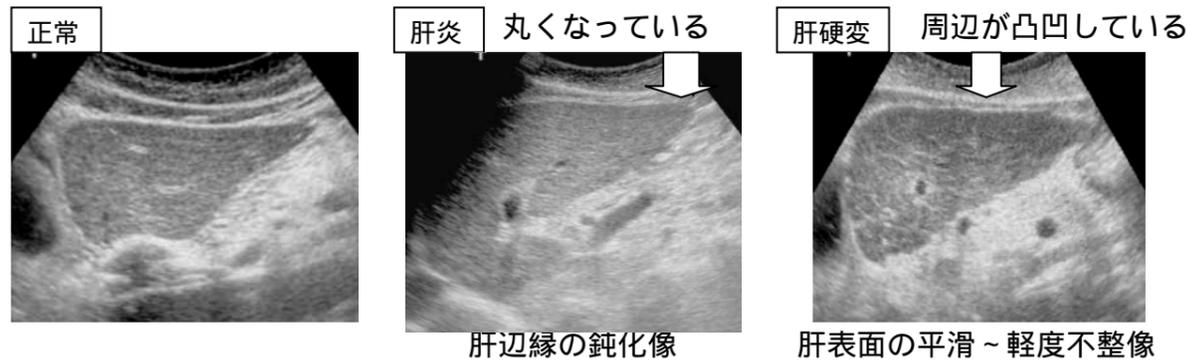
検査では、まずHCV抗体を測定し感染の有無を調べます。HCV抗体が陽性の場合、現在または過去のウイルス感染を示しており、ウイルス遺伝子の検査HCV(RNA定性検査)でキャリア(現在ウイルスに感染している人)かどうかを調べます。さらに持続感染の有無を調べるために、HCVコア抗体検査を行う場合もあります。

2、血液検査

肝障害(肝細胞の破壊の程度): AST(GOT)、ALT(GPT)
肝機能(蛋白質合成の能力、解毒の能力): コリンエステラーゼ(ChE)
プロトロンビン時間、アルブミンなど
肝繊維化: 型コラーゲン、ヒアルロン酸、血小板数など
肝細胞の腫瘍マーカー: AFP,AFP-L3(AFT レクチン分画)、PIVKA- など

慢性肝炎の超音波像

病変の進行度により、超音波所見に異常を認めないものから、肝硬変に近い所見を呈するものまで様々あります。一般的には、以下にあげる所見を呈することが多いです。



食生活の注意点

C型肝炎の進行を防ぐためには、朝昼夕に規則正しくバランスの良い食事をとることが大切となります。そして、肝臓への負担を減らすために以下のことに気をつけて下さい。

- 1、良質のたんぱく質をとりましょう
肝臓の細胞が壊れたり、再生したりを繰り返しているため、肝臓の再生を助けるように良質のたんぱく質をとることが大切です。
- 2、ビタミンを多くとりましょう
腸からのビタミン吸収が低下しています。また、肝臓の細胞の再生にもビタミンが使われます。
- 3、鉄分が多く含まれる食品は控えましょう
C型肝炎ウイルスのたんぱく質に鉄分をためこむ性質があるため、肝臓に過剰に蓄積してしまい、肝細胞を傷つけて病態を悪化させることがあります。
- 4、加工食品の使用は控えましょう
加工食品に使用されている食品添加物などの化学物質が体内に入ると、肝臓で解毒・分解するので、大量摂取すると肝臓に負担をかけることになります。
- 5、飲酒は控えましょう
アルコールは肝臓の機能を悪化させ、肝硬変や肝がんの発生を高める可能性があります。また、インターフェロン治療効果を低下させる可能性があります。
- 6、喫煙は控えましょう
肝がんの発生を高める可能性があります。

C型肝炎の治療について

C型肝炎治療の目的と方法は、患者さんの体の調子によって異なります。

治療目標には、ウイルスを完全に排除すること、肝臓の炎症を抑えて病気の進行を遅くすることの2つがあります。ウイルスを完全に排除すれば、病気が肝がんに進む可能性は極めて低くなります。治療をしてもウイルスを完全に排除できなかったり、体の調子によりウイルスを排除する治療を受けられなかった場合でも、病気の進行を遅くする治療方法があります。



ウイルスを排除する治療方法

インターフェロン(商品名: イントロンAなど)

インターフェロンは、本来私達の体の中でつくられる蛋白質で、ウイルスの増殖を抑える働きを持っています。これを薬として応用したのが、インターフェロン製剤です。週3回以上注射することで効果が期待できます。

ペグインターフェロン(商品名: ペガシス、ペグイントロン)

従来のインターフェロンにポリエチレングリコール(PEG)という物質を結合させることで、インターフェロンを血中に長く留まらせ、これまで週3回の投与が必要だったインターフェロンを週1回の投与で済むように改良されたものです。

リバビリン(商品名: コペガス、レベトール)

ウイルスを攻撃する薬で、インターフェロンやペグインターフェロンと併用することにより、ウイルスを攻撃する作用を増強します。

ペグインターフェロンとリバビリンの併用療法の組み合わせには、

- ・ペガシス+コペガス
- ・ペグイントロン+レベトールの2つがあります。

副作用について

治療中には、下記の表のような様々な副作用がみられます。しかし、これらの副作用のほとんどは一時的で、薬の量を減らしたり、いったん薬を休んだりすることにより副作用を軽くしてなるべく治療が続けられるようにします。

インターフェロンの副作用

発現時期	よくみられる副作用	注意が必要な副作用
初期 (1週間以内)	インフルエンザ様症状(発熱・悪寒・全身倦怠感・頭痛・関節痛など)、食欲不振、発疹・かゆみ	
中期 (2~12週)	全身倦怠感、食欲不振、不眠、不安・イライラ感	抑うつ状態、糖尿病悪化 間質性肺炎(咳・呼吸困難・息切れ等)
後期 (3ヵ月以降)	脱毛	甲状腺機能異常(動悸・発汗・むくみ等)
検査値異常 (治療期間中)		貧血、白血球減少、血小板減少